カーボンマイクロコイルの合成法:

アセチレンを触媒存在下、約800℃で熱分解すると、触媒を塗布した基板の上に気相成長炭素繊維が成長するが、その際その先端にある触媒粒が、自然に、60rpmの速度で回転しながら、コイル状に成長する。

気相成長した炭素繊維を、基板の上に機械的にコイル状に巻きつけて製造するのではない !!

反応装置図

基板上に成長したカーボンコイル

反応(成長)黎明期の状態:触媒から反対方向に2本のファイバーがカールしながら成長する

コイルの先端部分を上から見た電子顕微鏡写真

すべてのコイル先端には触媒粒(先端中央の白い部分)が観察される。この触媒粒が約60rpmで回転しながら成長する。(巻き方向には、右巻きと左巻きがある)

CMCが成長した基板を上部から観察した様子

300X

33.3μ

3280

15MIN

なぜ、人間の脈拍と同じ速度(60rpm)で回転しながら成長するのか？

直線の矢印は触媒粒
赤の矢印は回転方向

コイルの先端部分の様々な形の触媒粒（直線矢印）及び
その回転方向（半円矢印）

コイルの先端中央部にある触媒粒は単結晶である

Fig. 2. X-ray diffraction patterns of the coiled fibres shown in Fig. 1(a). (○) Ni₃C.

Fig. 3. (a) TEM dark image and (b) selected area electron diffraction patterns. (A) $(10\bar{1}0)$; (B) $(01\bar{1}1)$; (C) $(1\bar{1}0\bar{1})$.

09KV 4.00KX 2.50µ 2169 HOSAS129

10KV 25.0KX 400n 5648 2183B0

09KV 5.00KX 2.00µ 2190 HOSAS129

10KV 3.00KX 3.33M 3052

成長開始5分後のCMC

Rotation models

(a) Double-helix CMC

(b) Twist-CNC

ペアーコイル

(触媒粒が成長点となり、右巻きと左巻きの一重コイルがペアーとなって成長している)

- ・コイル状に巻いて成長していたものが、なぜ、途中で巻くのを停止するのか？
- ・再度巻き始める理由は？

シングルコイルの先端部分

Single-helix CMC

SE 23-Oct-03

WD14.4mm 5.0kV x1.0k 50um

さまざまな形態のコイル:

この様な形態のコイルは機械的に巻く方法では、絶対に製造できない!!

ジグザグ状のファイバー
コイルの前駆体？

2次元から3次元的に

・99.9%がダブルコイル

なぜ、ダブルコイルになるのか？

・右巻き(R)と左巻き(L)は数は 1:1、
なぜ同数なのか？

Ni単結晶上へのCMCのキラル成長？

提案されているコイルの成長メカニズム例

Growth mechanism

- 1) Boehm`s mechanism
- 2) Baker`s branching mechanism
- 3) Baker`s filament growth model
- 4) Downs-Baker`s Mechanism
- 5) Kim-Baker`s mechanism
- 6) Amelinckx`s mechanism
- 7) Owens`s mechanism
- 8) Fonseca-Dunlop`s Mechanism
- 9) Li`s mechanism
- 10) Chesnokov`s mechanism
- 11) Motojima`s anisotropy mechanism

1973, Boehm

Carbon from carbon monoxide disproportionation on Ni-Fe catalysts: morphological studies and possible growth mechanisms

Carbon, 11, 583-590(1973)

Amelinck's Mechanism(Nature, 1994):

- Co, C₂H₂
- 駆動力: 触媒粒子からの炭素の析出速度の空間的速度の異方性 (spatial-velocity hodograph)

問題点:

- Hodographのデータがない
- 2次元のみで3次元についての考察がない
- シングルヘリックスのみ

基本的に直線的に成長する気相成長炭素繊維が、コイル状に巻きながら成長する理由は？(コイル形成のメカニズムは?):

触媒(単結晶)面により、CMC成長速度に違い(異方性)があるため？

	Crystal plane			Polycrystal. Ni plate
	Ni(100)	Ni(111)	Ni(110)	
Deposition rate of total carbon (mg/cm ²)	32	23	19	23
Coil Yield (mol.%)	10.2	6.7	3.2	4.8

Motojima's Anisotropic Mechanism (触媒結晶粒の各結晶面における触媒活性の異方性がコイル状に巻く駆動力となる)

Ni 単結晶を用いた際のCMCのコイル収率

	Crystal plane			Polycrystal. Ni plate
	Ni(100)	Ni(111)	Ni(110)	
Deposition rate of total carbon (mg/cm ²)	32	23	19	23
Coil Yield (mol. %)	10.2	6.7	3.2	4.8

Figure 9. Schematic rendition of spiral nanofiber where the interlayer spacing at edges is wider than that at central regions

Fig. 36

ACヒーター加熱では、
なぜほとんどが扁平コイルとなるのか？

With EM wave

規則性カーボンマイクロコイル
(多くのコイルは、断面が扁平なカーボンファイバーから構成され、一定の
コイル径で非常に規則的に巻いており、コイル長さは5~10 mmに達する)

長く成長したCMCの根元
部分に見られる破断した
コイル(円形コイル)

Without EM wave

ファーバーの扁平化
(扁平コイル形成)
メカニズム？

Diamagnetic ?

触媒の磁気特性

Paramagnetic ?

CMCの析出パターン(2): 基材位置の影響

10KV 1000X 10.0μm 4782

10KV 1000X 10.0μm 6604

超弾力性CMC

—日本セラミックス協会—

『第31回(2006)セラミックスに関する顕微鏡写真展, 最優秀賞』

ツイスト状カーボンナノコイルから成長したダブルヘリックス状カーボンマイクロコイル(CMC)

シングルコイルの
成長パターンの
その場観察

ダブルコイルの成長パターン
のその場観察